

EV充電・課金 新明和がアプリ

認証不要で 高い利便性

新明和工業は充電の予約から支払いまでスマートフォンのみで行える電気自動車（EV）用充電・課金アプリ（ケイション）を開発した。2次元コード（QRコード）による認証が不要で、アプリで完結できる。同社の新設集合住宅用エレベーター方式駐車設備とセットで発売する。2024年1月に受注を始めた、26年度に累計でEV5000台への採用を目指す。

EVに充電器を接続する手作業を除き、充電の予約から支払いまでアプリで完結できるのは、機械式駐車設備では初という。

利用者はアプリに充電時間と入庫予定時刻を入力し予約すれば、駐車後に入庫スペースで充電器を接続するだけで充電できる。車両とクレジットカードの情報を登録して利用する。一般的なEV充

電アプリは充電前に2次元コードによる認証が必要で、駐車時にスマホ操作の手間がかかっている。

アプリの発売先はマンションなどの開発会社で、サービス契約先は管理組合。新明和工業は課金機能により、

充電時間に応じた料金を利用者から徴収し、管理組合の口座に振り込むサービスまでアプリで手がける。利用者と管理組合双方の利便性を高める。

新明和は人工知能（AI）でナンバープレートを認識し、リモコンや降車による駐車

操作の不要なエレベーター方式駐車設備を22年に開発した。同設備における操作アプリのオプションサービスとして、今回のアプリを追加する。消費税抜きで導入初期価格は500万円。

EV需要の拡大で、多くの駐車スペースに充電器設置を検討する計画中のマンションは多い。このため、駐車設備メーカーなどは充電器から料金徴収まで一貫したサービスを開發している。